

8. 福山資さんの妹への手紙  
(K.10.12)

14. 10. 12日

静穂様へ

元気で勉強してよ。兄さんも益々元気だ。

恵一兄さんは帰ったか。林いっだらう。ーカイ林いさな

んのは負けてははんぞ。お母あさう側で一生懸命や

勉強せよ。昔三月けしう試験だから君は僕より少しも時

代も出まらな安心だ。歯の手入はいっけよ。今年に

齒一本から二点減点。小いさうだからお母あさうに言

ふ。僕の乗車券は驛へもって行って残額を貰ってお

う。小松田に頼をいっ。後か帰る前日は定七さん方

から饅頭を十。三次郎さん方から生菜子を十買ってお

き。別に家ていっ。いっしてとて小あ。小から正月だ

から餅もあふな。ぜんざいいっ。正月はさう兄か

腹一杯遊ばせてやるぞ。だから一生懸命勉強して待つて

お。東京土産は何かいっ。余り高價な注文はすなよ。

今月の二十日は六月の月収だ。

右様奈良良

兄より

小水から金全部班長にあげたよ。

と告げよう。小水。高橋さん、小淵さん、太田さん手紙貰ったよ。

22-18

9. 福山資さんの妹への  
手紙(時期不明)

静穂様へ

どうだ。淋しいな。お前ももう少々は馬小たな

い。僕も家は住いよ。お前の存在が大きい。考

へた。お前はなにかたげと余りや。君が一番氣にな

るよ。余りやけり茶碗洗つたり拭き掃除した

りして。お前も余り林一と勉強の才も筆字は

お。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

た。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

た。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

た。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

た。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

た。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

た。お前ももう六年並なよ。お母あさう言ひ

産物を樂〜みにしておれ。

右様奈良良

資

22-19